# 曾侯乙墓衣箱上の宇宙図式

劉 信芳<sup>1</sup> (大櫛敦弘<sup>2</sup>・遠藤隆俊<sup>3</sup>)

(1安徽大学歴史系・2高知大学人文学部・3高知大学教育学部)

The Cosmology in the Ancient China;
The Designs of the Cosmos on the Dress Box of the Tomb of Lord Ceng

Liu Xinfang <sup>1</sup>, Okushi Atsuhiro <sup>2</sup>, Endo Takatoshi <sup>3</sup>

<sup>1</sup> Faculty of History, Anhui University; <sup>2</sup> Faculty of Humanities and Economics, Kochi University; <sup>3</sup> Faculty of Education, Kochi University

#### Abstract

One of the dress boxes excavated from the tomb of Lord Ceng at Hubei province represents the knowledge of the universe of the ancient China. The gods of the four points, that is the gods of the north, south, east and west, are drawn on each side of the box, being the design of constellations and the picture of the blue dragon and the white tiger drawn on the cover of the box. These designs represent the revolution of the celestial bodies and the correlation of heaven with earth.

キーワード;曽侯乙墓,衣箱,宇宙図式,五行思想

Keywords; the tomb of Load Ceng, the dress box, the design of cosmos, the thought of five elements

## 曾侯乙墓衣箱上の宇宙図式

曾侯乙墓の衣箱 E66 は、箱の上下左右六面で六合(天地と東西南北)を表しており、そのうち蓋は「天」を表している。箱の内部には朱色を塗って人の生活空間を表し、箱の底を「地」とする。箱蓋の中央には「斗土」の二字が記されており、天地の軸心であることを示す。箱の四側には四方神の像を描く。東方の神を「芒」とし、南方の神を「且」、西方の神を「弇茲」、北方の神を「玄冥」とする。衣箱は「斗」、「土」を中央に配置し、古代人が天地の運行を認識する拠り所と五行思想とを示す。衣箱全体は古代人が宇宙を認識する図式と称すべきものであり、中國古代の宇宙論について研究するうえで重要な意義を有している。

曾侯乙墓より出土した五件の衣箱のうち、この一件(標本 E66)の箱蓋上には二十八宿の名称が記されており、蓋面の右側には一匹の青龍が、左側には一匹の白虎が描かれている。この衣箱の二十八宿星図および青龍、白虎の図案については、学者が多く討論を交わしている。この衣箱の右側図、正側図、左側図の画面の意味については、論究する者は多くない。筆者は、この衣箱の蓋と四側の画面および箱底、箱の内部の着色などは、体系的な構想からなっており、箱の六面全体が一つとなって、天体の運行、天と地の相対的な意味、四方、四時などの内容を包含して、実際上、当時の人々の宇宙を認識する一幅の図解を構成するものと考える次第である。

## 一、衣箱画面の構成原理

衣箱の蓋、底、側板で「六合」を構成している。さらに蓋断面の孤形は天体運行の軌道を表現し、 底部とあわせて「天圓地方」を示す。

## 二、衣箱蓋中央の「斗土」について

「斗」は北斗、「土」は圭 (日時計の柱) で、地球と天球の軸心を表わす。その書写方向の傾きは、 現代地球儀の「偏軸」の角度と非常に接近している。

#### 三、衣箱画面中の四方神

- (一) 東方神「芒」: 衣箱右側(東方)に東、春、木を司る神である「芒」が描かれている。
- (二) 南方神「且」:衣箱正側(南方)に、車を駕す四匹の虯や、朱雀とともに描かれている。
- (三) 西方神「弇」: 衣箱左側(西方) に描かれている西方を司る神の像は、楚帛書のそれと驚くほどの相似性が認められる。
- (四) 北方神「玄冥」: 衣箱北面(北方) は、黒一色に塗りつぶされているが、それによって北方司神を表示している。

### 四、衣箱に反映された宇宙モデル

衣箱の反映する宇宙モデルには、以下三方面の重要な意味がある。

(一) 衣箱に見える五行思想

衣箱では、箱蓋に「斗土」とあり、四方側板に四方神や四宮神(青龍・朱雀・白虎・玄武)という配置となっている。五行思想は、中国古代人が時間と空間を一つに関連づけた解釈体系であ

るが、以上のような衣箱の画面や文字は、この解釈体系の内在的な根拠や構成原理を示すものである。

## (二) 衣箱に見える天、地関係

衣箱の内部は現在でいう「地球」、表面は「天球」の所在を表現している。後者のうち、右側(東面)、箱蓋(天空)、左側(西面)、正側(南面)にはいずれも色彩が施されており、箱背(北方)、箱底(地底)は黒色となっている。そこでは正確かつリアルに天と地との関係や日月星辰の運行の規律、および方位や季節、昼夜の原因などが示されているのである。その認識レベルは、後世の「渾天説」に近い。

#### (三) 衣箱の宇宙モデルと中国古代宇宙論との関係

この衣箱の蓋には「斗」・「土」字が重なり合って中央に配置されており、北斗と土地圭が天地運行の規準と座標であったことを示している。そこではリアルかつ正確に、郭店楚簡『太一生水』(1993 年に発見された道家の思想文献)の宇宙論を表しているのである。すなわち、天地運行の座標を認識することで、天の天たる所以、地の地たる所以を知る。神明は万物が形成される因素の所在であり、天地、神明は陰陽(衣箱の蓋の「天」と底の「地」、南北、東西、昼夜なども陰陽を包括する)を成し、しかる後に四時(衣箱の東春、南夏、西秋、北冬)、滄然(冷暖)、燥湿を成し、一年を成して止み、一つのサイクルとなるのである。中国古代の宇宙論としては、道家の『太一生水』以外にも儒家の『大戴礼記』曾子天圓があり、いずれも正確に古代人の宇宙認識を表している。これに対して曾侯乙墓の衣箱の宇宙図解は、「数術家」の宇宙論思想を示すものといえよう。前者が古代宇宙論の理論的説明であるとすれば、後者の衣箱は古代宇宙論の図解であるといえよう。この衣箱の設計者の宇宙に対する理解には驚くべき悟性が具わっており、戦国早期の天地・時空・方位に対する最高レベルの理解を反映しているのである。

#### 解説

劉信芳先生は 1955 年、湖北省の生まれで、現在は安徽大学歴史系の教授である。専門は中国の 先秦時代史および古文字学であり、出土文物や木簡、竹簡などから当時の社会や文化を再構成する 研究を行っている。主な著書に『孔子詩論述学』(安徽大学出版社、2003 年)などがあり、これは 上海博物館に所蔵される戦国時代の木簡を使って孔子の詩論を明らかにしたものである。今回、高 知大学と安徽大学の交流協定に基づき、平成 18 年 5 月 31 日から 6 月 7 日までの約 1 週間、高知大 学を訪問した。本稿はその時に高知大学で講演した論文の1つである。抄訳は人文学部の大櫛敦弘 先生が担当した。また講演ならびに翻訳に際しては、文部科学省科学研究費特定領域研究「東アジ アの海域交流と日本伝統文化の形成」日記班(代表者:遠藤隆俊)および四国海交班(代表者:津 野倫明)の援助をいただいている。

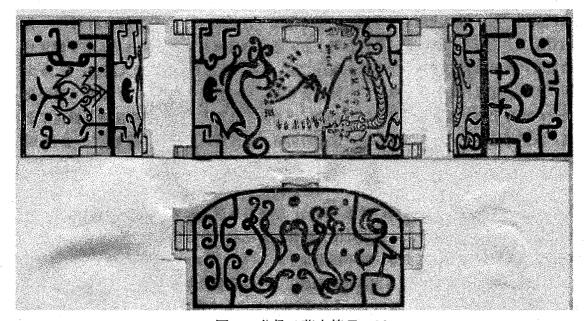
## 曾侯乙墓衣箱上的宇宙圖式

曾侯乙墓衣箱 E66 以箱體之六面表示六合,其中箱蓋表示"天";以箱體·部塗爲朱色表示人的生存空間;以箱底爲"地";箱蓋中央書有"斗土"二字,·示出天地的軸心;箱體四側繪有四方神像,東方之神爲"芒",南方之神爲"且",西方之神爲"弇茲",北方之神爲"玄冥"。衣箱以"斗"、"土"居中,·示了古人認識天地運行的依據以及五行思想。整個衣箱可以稱爲古人認識宇宙的圖式,對於研究中國古代的宇宙論具有重要意義。

在曾侯乙墓出土的五件衣箱中,其中一件(標本 E. 66)的箱蓋上記有二十八宿的名稱,蓋面右側繪有一青龍,蓋面左側繪有一白虎¹。對於該衣箱的二十八宿星圖以及青龍、白虎圖案,學者多有討論²。但對於該衣箱的右側圖、正側圖、左側圖的畫面意義,則鮮有人論及。筆者認為,該衣箱的箱蓋與四側的畫面以及箱底、箱體・部的著色等,出於一完整的構思,整個箱體的六面合在一起,包含了天體運行、天與地的相對意義、四方、四時等・容,實際上構成了一幅當時人們認識宇宙的圖解。

## 一、衣箱畫面的構成原理

首先應該指出,該衣箱的畫面是按照天地以及四方的相對位置構成的。讀者不妨用透明紙依照該衣箱墨線圖作一·本,將·本的畫面向上,將繪有青龍的一側對準東方,由下向上作透視,就可以知道:箱蓋上的畫面是天體及其星象的仰視圖,因而箱蓋的畫面指天;箱底指地;右側圖指東方;正側圖指南方;左側圖指西方;而箱的背面指北方(圖一)。



圖一 曾侯乙墓衣箱 E. 66

箱蓋(天)、箱底(地)以及箱之四側(東、南、西、北)共同構成"六合",《莊子·齊物論》:"六合之外,聖人存而不論;六合之·,聖人論而不議。"成玄英疏:"六合者,謂天地四方也。"六合之·是人的生存空間。曾侯乙墓出土的五件衣箱中,除 E. 66 箱體·塗爲朱色以外,其餘四隻衣箱的箱體之·均塗爲黑色。如果以黑色爲暗,爲人視之所不見,則朱色代表光明,爲人視之之所及。六合之·作爲人的生存空間,仰可觀天文,俯可察地理,四方亦在人的認識範圍之·。而六合之表的箱體畫面以黑漆爲底,以朱色構成畫面,朱色畫面的·容尚爲人所知,黑底則屬於人的未知領域。至於六

合之外,則不在討論的範圍。可知該衣箱・塗爲朱色,是有深刻含義的。該衣箱之箱蓋從東到西爲弧形,日月的東升西落、星移斗轉,就在這弧蓋的軌道上運行。弧蓋實際上是人們所能見到的天體運行軌道的一部分,如果加上人們視線所不及的另一部分,那・可以推知,古人已經知道天體的運行軌道是圓的。箱蓋上的二十八宿圍繞北斗構成一個圓圈,實際上已經・明了這個道理。

古時有"天圓地方"之·,那·是否可以·該衣箱畫面對天地的處理是遵循"天圓地方"的原理呢?筆者認為,衣箱上的天的確是"圓"的,但不是球體之圓³,因而不能理解為覆盆之圓。衣箱中的地的確是"方"的,但由於箱體·是指人的生存空間,古人對於屬於自己的領域是以縱橫長短計算的,一定領域之方並不等於大地之"方",因而箱體·的地之"方"不能簡單地理解爲棋盤之方。關於這一點,我們可以藉《大戴禮記·曾子天圓》中的以下一段討論作一·明:

單離居問于曾子曰:"天圓而地方者,誠有之乎?曾子曰:"離,而聞之云乎?"單離居曰: "弟子不察,此以敢問也。"曾子曰:"天之所生上首,地之所生下首。如誠天圓而地方,則是四角之不掩也。且來,吾語汝。參嘗聞之夫子曰:天道曰圓,地道曰方。"

"天圓地方"的真實含義是"天道曰圓,地道曰方"。由衣箱箱蓋之"天"是圓弧形的,所顯示的天體運行的軌道是"圓"的,可知孔子將"天圓地方"解釋爲"天道曰圓,地道曰方"是正確的。關於"天圓地方",拙稿《太一生水與曾子天圓的宇宙論問題》有過詳細討論4,請參・。

### 二、關於衣箱箱蓋中央的"斗土"

衣箱箱蓋中央所書的"斗"字之下有一"土"字,以前論者多將該二字釋爲一個字,即"斗"字。李零先生認爲該衣箱中央的"北斗由土、斗二字構成,也合于雙古堆漢墓出土六壬式於地門位置書寫的'土斗戊'(斗亦居土位)"5,這一·法具有很大的啓發性。現在我們進一·指出,箱蓋中央的字是"土"、"斗"二字,而不是由土、斗二字構成一字。明確這一點很重要。這裏的"土"應理解爲土圭,古人以土圭測日影,據日影之長短確定二分二至,並作爲方位(東南西北)、季節(春夏秋冬)的劃分依據。土圭之所在爲地之中6,斗之所在爲天之中,土、斗重合是古人所設的天地之中,相當於我們今天所·的地球和天球的軸心。

箱蓋中央的"土"、"斗"二字的閱讀順序應讀為"斗土",關於這一點,我們可以藉典籍中的"星土"作一説明。《周禮·春官·保章氏》:"以星土辨九州之地所封,封城皆有分星,以觀妖祥。"注:"星土,星所主土也。封猶界也。鄭司農·星土以《春秋傳》曰:參為晉星,商主大火。《國語》曰:·之所在,則我有周之分野之屬是也。"按是注不明晰,"星土"之"土"除了"星所主土也",還包含有"土其地"亦即"度其地"的含義。《周禮·地官·大司徒》:"凡建邦國,以土圭土其地而制其城。"注:"土其地猶言度其地。鄭司農云:土其地,但為正四方耳。"賈疏:"以土圭度其地。假令封上公五百里,國北畔立八尺表,夏至晝漏半,得尺五寸景,與土圭等。南畔得尺四寸五分,其中減一分,一分百里,五分則五百里。減四分則四百里,封侯;減三分則三百里,封伯;減二分則二百里,封子;減一分則一百里,封男。是土其地之法。而制其域者,自上公五百里以下,境界皆有營域封圻。"

賈疏所謂"國"為周天子之所在,"畫漏半"謂日中,其所在地為日中之景尺五寸。"南畔得尺四寸五分",謂設距周"國"以南五百里之某地,其夏至日中圭表之景為尺四寸五分。·減一分,則距離為一百里。可知古時封域以土圭之影以測距離,如是則"以星土辨九州之地所封","星土"之"土"謂土圭,應是非常明確的。與土對應之"星",應指北斗以及二十八宿,在衣箱上則表現為居中之北斗以及繞天一周之二十八宿星名。

古人以土圭測定方位與距離,藉以封土或建立城垣,在著名的《楚帛書》中亦有記載。《楚帛書》甲

篇第2行記伏戲所處的漁獵時代, 先民"以司堵襄(壤), 咎(晷)而・達"。"堵壤"指城垣7, "晷"謂土圭。 "晷而・達"謂以晷儀測定方位, 兼以測定"百里"為單位的距離。而不足百里則以"・達", 即以・幅測定其距離。可見帛書"晷而・達", 就其實際內涵而言, 與《周禮·地官·大司徒》"以土圭土其地而制其域"是相一致的。

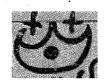
現在我們再來看衣箱中部的"斗土"二字,其上指西北維而偏於北方;其下指東南維而偏於南方。 角度與現代地球儀"偏軸"的角度非常接近。明確衣箱中部的文字不是"斗"一字而是"斗土"二字,是我們解讀該衣箱宇宙圖式的一把鑰匙。

#### (一) 衣箱畫面中的四方之神

該衣箱的四側分別繪有四方之神、以下依東、南、西、北爲序、依次・明。

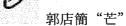
## 1、東方之神"芒"

衣箱右側 (東方) 的畫幅中央書一"芒"字<sup>8</sup>, 該字上部的兩個"十"字形是"艸"字頭, 中間的一撇一捺是"人"字形, 下部的圓弧是"し"字形。一經・解, 熟悉古文字字形的讀者不難看出該字就是"芒"字的圖畫化 (圖二)。









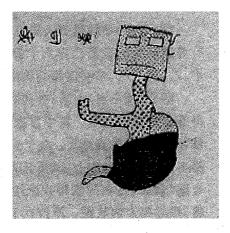


信陽簡"芒"

圖二 衣箱刻銘與楚簡"芒"字比較

在古代數術體系中, "芒"是東方神名。《左傳》昭公二十九年: "木正曰句芒。"《楚辭·遠遊》: "吾將過乎句芒。"王逸注: "就少陽神於東方也。"《山海經·海外東經》: "東方句芒,鳥身人面,乘兩龍。"郭璞注: "木神也。"《呂氏春秋·十二紀》:孟春、仲春、季春, "其帝太·,其神句芒。"高誘注: "句芒,少·氏之裔子曰重,佐木德之帝,死爲木官之神。"楚帛書丙篇亦記有四方神名<sup>9</sup>,其中司東方、司春之神名爲"秉",其字《爾雅》作"·"。秉、丙古音同在陽部,幫紐, "芒"古音在陽部,明紐, 古讀音近, "秉"、"芒"用字雖異,但同爲東方神名則一。

楚帛書司東方、司春之神像爲方頭(圖三),頭上有細短毫毛。"芒"之本義指草木之杪,至今俗語尚有針尖麥芒,可知帛書司東方、司春之神頭上的細短毫毛,其實就是"芒"的圖解<sup>10</sup>。

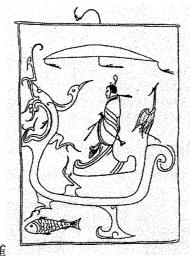


圖三 楚帛書秉月神祇圖

## (二) 南方之神"且"

衣箱正側(南方)的畫幅中央爲一男根形,從文字的角度可以理解爲"且"字<sup>11</sup>。"且"之左右各有二虯,以表示"且"所駕馭之四虯。畫面右部有一鳥,立於一鈎形器物之上。

《離騷》:"駟玉虯以乘鷖兮。"王逸注:"有角曰龍,無角曰虯。鷖,鳳凰別名也。《山海經》云:醫身有五彩,而文如鳳。鳳類也。以爲車飾。"洪興祖補注:"言以鷖爲車,而駕以玉虯也。駟,一乘四馬也。"畫面右部之鳥與箱蓋上的東蒼龍、西白虎構成一組,應屬南朱雀。朱雀立于車之尾部,對此我們可以藉著名的"人物禦龍帛畫"作一・明 1973 年出土于湖南長沙子彈庫一號墓的"人物禦龍帛畫"<sup>12</sup>,畫面主人公爲一系高冠之男子,側身直立,駕馭一水車,車尾立一鳥<sup>13</sup>。如果將帛畫鳥足下的鈎形車尾與衣箱鳥足下的鈎形符號作一比較,就不難看出衣箱畫面是以鈎形符號代表車尾(圖四)。





衣箱朱雀

子彈庫楚墓帛畫

圖四 衣箱朱雀與子彈庫楚墓帛畫

"且"在古代是司夏、司南方之神、楚帛書中的司夏之神爲"胤",其字《爾雅》作"且"。司夏、司南方之神又被稱爲"祝融",《左傳》昭公二十九年:"火正曰祝融。"《呂氏春秋·十二紀》:孟夏、仲夏、季夏,"其帝炎帝,其神祝融。"高誘注:"祝融,顓頊後老童之子・回也,爲高辛氏火正,死爲火官之神。"類似記載又見於《禮記·月令》。關於南方司神"且"與"祝融"的文字之異以及其間的聯繫,我曾經作過・明,此不贅述14。



圖五 帛書獻月神祇圖

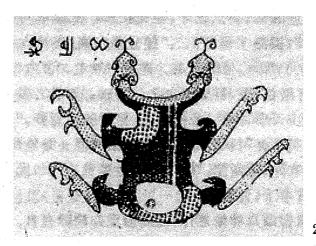
《山海經·海外南經》:"南方祝融,獸身人面,乘兩龍。"帛書南方司神之神像正爲獸身人面,兩足之間繪有二龍(圖五),學者或稱爲"二尾",其實正是"二龍"之遺痕。祝融乘兩龍即駕馭二龍,這與衣箱畫面中"且"馭四虯,所表現的主題是一致的。二龍與四虯的差別,可以看作神話傳・中的變異現象。

## (三) 西方之神"弇茲"

衣箱左側(西方)畫面中上部有一"山"形, "山"形之下有一"水"形, "水"形下部的 "升"的横畫借用了箱口線。"水"其實就是"弇"字。《·文》:"弇,蓋也。從升,合聲。" "合"是會意字, "·"亦聲(參朱駿聲《·文通訓定聲》)。可知我們將畫面中的"水",形釋爲"弇",應是合理的。畫面中部的主體部分其實是"茲"字的圖畫化。

"弇茲"乃古代數術體系中的西方神名。《山海經·大荒西經》: "西海陼中有神,人面鳥身,珥兩青蛇,踐兩赤蛇,名曰弇茲。" "弇茲"又作"崦·",《離騷》: "吾令羲和弭節兮,望崦·而勿迫。" 王逸注: "崦·,日所入山也。"

楚帛書中的司秋、司西方之神爲 "多" (絲), 多爲 "絲"之省形。其字《爾雅》作"玄", "玄"乃"糸" (絲)之訛。關於這一點,我曾經作過解·15。衣箱中的司西方之神"弇茲",與帛書中的司秋、司西方之神"多"(絲),就其實質而言是一致的。"茲"字依《·文》的解釋,從艸,絲省聲。可知"茲"與"糸"(絲)讀音相通。帛書司秋、司西方之神像爲左右有首,兩側各有二鈎·兵器伸出。不難發現,帛書司西方之神祇圖與衣箱司西方之神像具有驚人的相似性(圖六)。





圖六 1衣箱西方神祇圖 2帛書糸月神祇圖

古代司西方、司秋之神又被稱爲"蓐收"。《左傳》昭公二十九年:"少·氏有四叔,曰重、曰該、曰修、曰熙,實能金木及水。使重爲句芒,該爲蓐收,修及熙爲玄冥。世不失職,遂濟窮桑。"《呂氏春秋·十二紀》:孟秋、仲秋、季秋,"其神蓐收"。高誘注:"少·氏曰該,皆有金德,死托祀為金神。"《國語·晉語》二:"號公夢在廟,有神人面、白毛、虎爪,執鉞,立于西阿,公懼而走。神曰:'無走。帝命曰,使晉襲於爾門。'公拜稽首,覺,召史嚚占之。對曰:'如君之言,則蓐收也,天之刑神也,天事官成。'公使囚之,且使國人賀夢。"此·描寫蓐收之·,最與帛書司秋之神像相合。《山海經·海外西經》:"西方蓐收,左耳有蛇,乘兩龍。"郭璞〈注〉:"金神也,人面、虎爪、白毛、執鉞。"郭〈注〉實本于《晉語》。

#### (四) 北方之神"玄冥"

衣箱北面(北方)爲黑色,無文飾。學者或認爲: "另一側則全爲黑色(古又稱玄色),無圖像。" "表示能見龍、虎、雀三象時,北宮玄武看不見。" <sup>16</sup>

筆者認爲,衣箱背面(北方)的黑色除了包含北宮玄武的含義外,還包含了冬季、北方之司神"玄冥"的含義,有如箱體南側既繪有朱雀,又繪有南方、夏季之司神"且"的形象。《·文》: "黑而有赤色者爲玄。"《詩·小雅·斯干》: "噦噦其冥。"鄭玄箋: "冥,夜也。"以黑色表示北方司神玄冥,實在是很確當的。

## 三、由衣箱所反映的宇宙模式

以上我們分析了衣箱的構成原理,重點討論了衣箱箱蓋中央之"斗土",四側之四方、四季司神,可知衣箱很形象地·示了古人的"六合"思想,代表了當時(戰國早期)人們認識宇宙所達到的水平。 衣箱所反映的宇宙模式具有以下三方面的重要意義。

## (一) 衣箱所包含的五行思想

依照古代的五行學・, 土居中央, 寄在四維。然而何以以土居中央, 而不以金或木或水或火?這一・及五行・在構成原理的重要問題從未見有人・清楚。衣箱以斗、土重合為天地之中, 十分清楚地・示了"土居中央"的數術依據。土位既定, 則北方爲水位, 以黑爲代表色; 東方爲木位, 以青爲代表色; 南方爲火位, 以赤爲代表色; 西方爲金位, 以白爲代表色。衣箱的北方塗爲黑色, 實質上已經標明了五行顏色的空間分佈<sup>17</sup>。

當著太陽由春至夏、至秋、至冬,依次在天幕上經過二十八宿,運行一周(360°),在土圭上則表現爲"景短"、"景長"、"景夕"、"景朝"<sup>18</sup>,地球上則顯示爲春夏秋冬的季節變化。古以司春之神爲木神,即衣箱東方之神"芒";司夏之神爲火神,即衣箱南方之神"且";司秋之神爲金神,即衣箱西方之神"弇茲";司冬之神爲水神,即衣箱北方之神"玄冥"。季節的五行代次實際上就是五行的時間循環。衣箱上既繪有四宮之神:東蒼龍,南朱鳥,西白虎,北玄武(黑色無圖像);又繪有四方之神:芒(句芒),且(祝融),弇茲(蓐收),玄冥(黑色無圖像)。很清楚地・示了這兩套神名各自的數術意義以及相互閒的聯係。

五行思想是中國古人將時間與空間聯繫在一起的解釋體系,衣箱上的畫面分佈和文字·明·示了這一解釋體系的·在依據以及構成原理,這對於我們研究中國古代的宇宙論以及科技史都具有十分重要的意義。

## (二) 衣箱所包含的天、地關係

衣箱的箱體・部塗爲朱色,以"六合之・"代表人類的生存空間;衣箱之表亦即六合之表,是人們所能看到的天幕,已如前述。我們可以進一・指出,箱體・部是"地"之所在,亦即我們今天所・的"地球";箱體之表是"天"之所在,亦即我們今天所・的"天球"。箱體右側(東面)、箱蓋(天空)、左側(西面)是日月五星運行軌道之所在,日、月由東方升起,經過天蓋而落於西方,那・理所當然地,日、月將繞過箱體底部然後又從東方升起。

箱體的蓋、右側、左側、正側均塗有色彩,惟箱背、箱底爲黑色。我們知道,日出於東南隅而落於西南隅,因而東南西三面都有光明,能顯示物象,爲人們視線之所及;惟北方(北極)有長夜,玄冥

一片;而箱底則在太陽方位的背面,代表了"地"的另一側,爲黑夜之所在。由於中國的地理位置在 地球的北半球,因而可以, 衣箱箱體的著色設計很形象地反映了中國地理位置的特。。

該衣箱準確生動地·示了天與地的關係,日月運行、星移斗轉的規律,以及方位、季節、白天、黑夜的成因。就其達到的認識水平而言,近於後世的"渾天·"。《晉書·天文志》載《渾天儀注》云:"天如雞子,地如雞中·,孤居於天·,天大而地小。"("地如雞中·"很容易使我們聯想起衣箱·部的朱色)又劉洪《乾象·》云:"前儒舊·,天地之體,·如鳥卵,天包地外,猶殼之裹·也;周旋無端,其形渾渾然,故曰渾天也。周天三百六十五度五百八十九分度之百四十五,半覆地上,半在地下,其二端謂之南極、北極。"整個衣箱為"半覆地上"之形,至於"半在地下",則由繞天一周的二十八宿作出了暗示。

## (三) 衣箱宇宙模式與中國古代宇宙論的關係

1993 年出土的道家思想文獻郭店簡《太一生水》<sup>19</sup>, 對於我們理解曾侯乙墓衣箱的宇宙圖式具有參考意義, 我們先看《太一生水》的以下論述:

大一生水。水反・(映)大一,是以成天。天反・(映)大一,是以成地。天地〔復相・(映〕〕 也,是以成神明。神明復相・(映)也,是以成陰易(陽)。陰易(陽)復相・(映)也,是以成 四時。四時復・相・・(映)也,是以成倉(滄)然。倉(滄)然復相・(映)也,是以成濕(濕) 澡(燥)。濕(濕)澡(燥)復相・(映)也,成・而止。

"·"字學者多釋爲"補",關於該字的隸定以及何以應讀爲"映",我已另文作過·明²0。所謂"太一生水",我曾經指出:"水"不能理解爲作爲特殊物質(water)的水,"水"在這裏是"准"的意思,《·文》:"水,准也。"《考工記·栗氏》:"權之然後准之,准之然後量之。"注:"准,故書或作水。"古人以土圭觀察天體運行,首先要設置一個水平面,然後樹一根合於懸垂的標尺,以標尺爲圖心繪一個圓形的刻度盤,依據刻度盤記·日影的變化,而後可以得到年、月、日、二分、二至、四方、四維等時間、方位的數據。

衣箱的箱蓋將 "斗" 與 "土" 重疊置於天蓋的中央, · 明北斗與土圭是天地運行的準繩與座標<sup>21</sup>, 生動而又準確地·示了 "太一生水" 的·涵。有了認識天地運行的座標, 而後知天所以爲天, 地所以爲地。神明是萬物之所以成的因素之所在(《·文》: "神, 天神引出萬物者也。")。天地、神明所以成陰陽(衣箱之箱蓋之天與箱底之地;南、北;東、西;白天、黑夜均包含著陰陽), 然後成四時(衣箱之東春、南夏、西秋、北冬), 成滄然(冷暖), 成濕燥, 成·而止, 形成一個周期。

中國古代的宇宙論除了道家的《太一生水》而外,還有儒家的《大戴禮記·曾子天圓》。《曾子天圓》 中的"天圓地方"·,"·景"、"外景"·,都很準確的·示了古人對宇宙的認識。曾侯乙墓衣箱 的宇宙圖示可以·反映的是數術家的宇宙論思想。如果·《太一生水》、《曾子天圓》是對古代宇宙論 的理論·明,那·曾侯乙墓衣箱則是對古代宇宙論的圖解。該衣箱的設計製作者對於宇宙的理解具有 驚人的悟性,反映了戰國早期對於天地、時空、方位的最高認識水平。

作者:劉信芳(1951—),男,湖北宜昌人,安徽大學歷史系教授。主要從事古文字、出土文獻研究。 <sup>1</sup> 湖北省博物館:《曾侯乙墓》,第 354 頁,北京,文物出版社,1989 年 7 月。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 王建民等:《曾侯乙墓出土的二十八宿青龍白虎圖像》,《文物》1979 年 7 期。

黃建中等:《擂古墩一號墓天文圖像考論》,《華中師範學院學報》(自然版)1982年4期。

張聞玉:《曾侯乙墓天文圖像"甲寅三日"之解釋》、《江漢考古》1993年3期。

王小盾:《火曆質疑》,《中國天文學史文集》(第六集),科學出版社,1994年。

馮時:《星漢流年——中國天文考古錄》,四川教育出版社,1996年。

武家壁:《曾侯乙墓天文圖證解》,稿本。在此感謝武家壁先生以稿本賜讀。

- 3 箱蓋之圓以理解爲天體運行的軌道之"圓"爲妥當。
- <sup>4</sup> 劉信芳:《〈太一生水〉與〈曾子天圓〉的宇宙論問題》,《中華文史論叢》第77輯,上海古籍出版社, 2004年8月。
- <sup>5</sup> 李零:《李零自選集·楚帛書的再認識》,第 250 頁,桂林,廣西師範大學出版社,1998 年 12 月。
- 6 這裏的"地之中"指古人觀測天象所設置之"中",亦即土圭圭表所立之圓心。
- "《說文》:"堵,垣也,五版爲堵,從土,者聲。""堵壤"謂城垣,說參拙稿《楚帛書解詁》,《中國文字》新廿二期,第74頁。
- <sup>8</sup> 拙稿《曾侯乙幕衣箱禮俗試探》(《考古》1992年10期)釋云:"該衣箱與蓋上青龍相應的一側繪有一日狀物,圓面向下;與白虎相應的一側繪一蟾蜍,表示月亮,象徵日月居於東西地平線偏下之處,這正是傍晚的天象。"此說與衣箱的實際方向不符,謹此糾正。
- 9 饒宗頤、曾憲通:《楚帛書》,中華書局香港分局,1985年9月。
- 10 說參拙文《中國最早的物候曆月名——楚帛書月名及神祇研究》,《中華文史論叢》第五十三輯,第 75 頁。
- 11 該衣箱畫面的特點是畫中有字,字中有畫。我們在作相關考釋的時候必須充分注意這一特點。
- 12 湖南省博物館:《新發現的長沙戰國楚墓帛畫》,《文物》1973 年 7 期。 湖南省博物館:《長沙子彈庫戰國木槨墓》,《文物》1974 年 2 期。
- 13 論者多認爲帛畫主人公駕馭的是龍,對此我曾經提出:該帛畫上部繪有車蓋,《九歌·河伯》: "乘水車兮荷蓋,駕兩龍兮驂螭。"據此畫中主人公應是乘於水車之上。參拙文《關於子彈庫楚帛畫的幾個問題》,《楚文藝論集》,湖北美術出版社,1991年12月。
- 4 《中國最早的物候曆月名——楚帛書月名及神祇研究》,《中華文史論叢》第五十三輯,第82頁。
- 15 《中國最早的物候曆月名——楚帛書月名及神祇研究》,《中華文史論叢》第五十三輯,第89頁。
- 16 黃建中等:《擂古墩一號墓天文圖像考論》,《華中師範學院學報》(自然版)1982年4期。
- 17 關於五行顏色的空間分佈,《楚帛書》甲篇記云:"青木赤木黃木白木墨木之旌"。五木之旌其實就是古人觀測天體運行以及測試方位的五根標尺,《淮南子·天文》:"正朝夕,先樹一表東方,操一表卻去前表十步,以參望,日始出北廉,日直入,又樹一表於東方,因西方之表,以參望,日方入北廉,則定東方。兩表之中,與西方之表,則東西之正也。日冬至,日出東南維,入西南維。至春秋分,日出東中,入西中。夏至,出東北維,入西北維,至則正南。"
- 18 《周禮·地官·大司徒》:"以土圭之法測土深,正日景以求地中,日南則景短,多暑;日北則景長,多寒;日東則景夕,多風;日西則景朝,多陰。日至之景尺有五寸,謂之地中,天地之所合也,四時之所交也,風雨之所會也,陰陽之所和也。然則百物阜安,乃建王國焉,制其畿方千里,而封樹之。"《釋名·釋天》:"晷,規也,如規畫也。"《漢書·律曆志》:"乃定東西,立晷儀,下漏刻,以追二十八宿相距于四方,舉終以定朔晦分至,躚離弦望。"
- 19 荆門市博物館:《郭店楚墓竹簡》,北京,文物出版社,1998年5月。
- <sup>20</sup> 劉信芳:《〈太一生水〉與〈曾子天圓〉的宇宙論問題》,《中華文史論叢》第77輯,上海古籍出版社, 2004年8月。
- 21 如果是在式盤上,北斗與土圭的重疊表示天盤與地盤中心點的重合。

平成18年 (2006) 11月30日受理